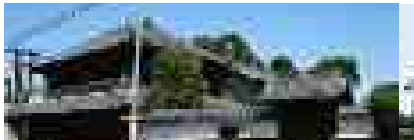


27 杉戸山宝性院不動寺  
開山は永禄3年(1562)徳川家から幸手庄内を賜った一色宮内大輔義直による。境内には嘉永2年9月(1849)に再建された不動堂があり、安産、成田山、菅谷山の3体の不動明王が祀られ、身上安全、安産、子育て、厄除け、開運、交通安全など祈祷されている。杉戸7福神の毘沙門天も祀られている。江戸時代には寺子屋があり、現在の杉戸小学校は、明治7年4月(1876年)宝性院を仮校舎としてはじまる。境内には文化7年(1810)の日光道標がある。



渡辺勘左衛門邸



渡辺金物店



稲荷神社



24 富士浅間神社  
ここ浅間神社の岩山の一角に、次の芭蕉の句が、自然石に刻まれている。「八九間 空で雨ふる 柳哉(かな)はせ越(を)」と刻まれている。



高札場跡

21 杉戸宿の高札場  
幕府の命令や捉書を住民に知らせるため、木の札に書かれたものを高札といひ、この高札を複数枚まとめて、目立つように高く掲げられた場所が高札場です。現在の官報掲示板と同じです。杉戸宿の高札場は上町にて、日光道中と関宿旧道の曲が角付近です。高札場は上町の四郎兵衛屋敷内で間口23間半の内2間半の税が免税された。伝説ではこの高札場で衆人の監視のもと、罪人の懲罰を行ったようです。後に鳶谷に変更になったと伝わる。



西側脇本陣 / 酒屋伝右衛門邸跡

杉戸宿脇本陣 酒屋伝右衛門邸跡  
西側の脇本陣は現在の県道杉戸境線の東側で小林質店の向かい側に当たる場所です。酒屋伝右衛門が脇本陣を勤めていました。建坪は87坪でした。酒屋伝右衛門は杉戸宿旅館組合の惣代も勤めていました。現在、杉戸宿には酒屋や鳶屋は残っていません。



明治天皇御休所跡  
明治天皇は明治9年(1876)6月3日と明治14年(1881)7月31日に奥羽・北海道巡幸の際に杉戸宿で休養をとりました。明治9年の巡幸では、現在の三井住友信託銀行のある旧杉戸宿問屋場の埼玉県第六区区務所に14時15分に到着し20分に出発したことが記録に残っている。5分間の休憩でした。この時、明治天皇から家臣の休息所となった瀬田吉平、渡辺啓三郎、蟹江伝七、早乙女嘉右衛門、大塚あき、白石庄六、今村清兵衛に褒賞が出されました。碑の題字は西郷従徳の手による。伊奈稲荷神社 問屋場の裏に位置することから、問屋場稲荷と呼ばれ親しまれています。神社は当時の花柳界の人から深く信仰され、本殿に見られる鯛に、22名の女人衆世話人の名が刻まれています。

下町・問屋場付近  
旅籠屋釘屋嘉右衛門宅跡 上の写真は、名主問屋渡辺左左衛門宅跡で子孫渡辺徳太郎は初代杉戸町長。旅籠屋釘屋嘉右衛門宅跡 上の写真の車が止まっている家が旅籠屋釘屋嘉右衛門宅跡で、釘屋は十返舎一九が書いた「奥羽一覧道中旅籠」と出てくる宿、内容は先生である延高、築屋房、野次郎兵衛、喜多八の4人で旅籠屋釘屋嘉右衛門宅に泊まった事が記されている。



近津神社  
貞享元年(1684)創建。安政5年(1858)、昭和4年(1929)再建。大正8年(1919)青地村の村社となるが、平成13年(2001)不審火で消失仮社殿。元治元年(1864)9月、地元の石工 石塚元吉と倅の又吉によって造られた狛犬は、他に類をみない特異な姿勢であり、いつしか見返り狛犬などと呼ばれようになりました。

24 粕壁宿～杉戸宿  
埼玉県杉戸町  
堤根～杉戸宿  
(歩行距離 2715m 34分)  
歩く地図でたどる日光街道  
http://nikko-kaido.jp/  
JZE00512@nifty.ne.jp



10 三本木一里塚  
日本橋から10里の一里塚。左が清地村内、右は堤根村地内にあり、縦・横とも約9m、塚の上に檜が植えられていた。民家の垣根の中に案内板があるので、注意深く探してみる。

八幡神社  
六本木の鎮守で、かつて真言宗万福寺持ちの本社であった。

杉戸町役場  
明治14年(1881)北葛飾郡と中葛飾郡の郡役所が仮庁舎からこの地に移設され、両郡の合併以降も大正15年(1926)の郡制廃止まで郡行政の中心地であり続けた。



豊島屋 / 関口式右衛門邸  
豊島屋は現在屋号を関口酒造とし、文政5年(1822)創業。祖先は今川義元の養女になり、徳川家康の正室にもなった築山御前があられるという。一族は桶狭間の戦いのあと、現在の町東端に移り住んだそうです。清酒「杉戸」がある

来迎院  
本尊は運慶作と伝えられ、奥州藤原氏の守護仏として尊崇されています。源頼朝に滅ぼされた藤原泰衡の弟錦戸三郎は、家臣の田村五郎秀時に不動明王を託します。建久3年(1192)に秀時は胆願坊幻夢と称し、胆願寺を建立しました。戦乱になり寺は焼かれるも、明徳3年(1392)に日照が同寺を再興します。天正5年(1577)に僧有九が休が、花光山来迎院胆願寺普門坊と称したことで、来迎院となりました。

東福寺  
「宿内東福寺境内におしみの松と号(なづけ)候松し之」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)おしみの松は今はない。元和元年(1615)上杉戸から移設。明治22年(1889)杉戸町最初の本町役場となった。明治時代初期、全国的に自由民権運動が高揚する中、ここ東福寺は埼玉県東部地域の中心となり、政談演説会が度々行われていた。また明治22年(1889)には杉戸町の最初の町役場が置かれた。門前を通る道は、南側用水路、今は暗渠化され遊歩道になっている。

25 角穀跡 / 小島定右衛門邸  
宿場の特徴のひとつでもある町外れの「枡形」。その道沿いに堂々たる風格を見せる古民家「角穀」です。母屋と蔵が並ぶ優美さは、道行く人の心をほっとさせる。屋号は枡形の通りの角にある「米穀問屋」ということです。米を輸送するときは古利根川を利用して江戸に運ばれました。

杉戸宿脇本陣 鳶屋権左衛門・吉兵衛邸  
本陣を挟み東西に1軒ずつありました。いずれの脇本陣も玄閤はありませんでした。東側の脇本陣は現在の埼玉懸信用金庫杉戸支店と本陣長瀬家との中間地点と推測されます。建坪は94坪でした。明治初期には徳兵衛が所有者ですが、元禄10年(1697)の検地表では、この場所は権左衛門の屋敷でした。権左衛門は道路南側に屋敷を所有していました。ここは、明治初期の絵図に鳶屋吉兵衛の名前が見られます。このことから、脇本陣は鳶屋権左衛門・吉兵衛であったと推定されます。

漢方医虎屋跡 / 内山周文邸  
江戸時代からの薬屋。「五疳之薬(ごかんのくすり)虎屋長蔵」(東興商人鑑)虎屋善蔵は(内山周文)は杉戸宿の漢方医の一人でした。その後も跡を継ぐ者も昭和初期まで診療医として地域医療を担っていました。跡地には大きな松が枝を誇っています。屋号虎屋はそのまますろ局に名を伝えていす。「多少庵俳壇史」には、善蔵について「内山小養通称は善蔵杉戸の人なり、有名なる小児科の医家にて家号を虎屋」、「医才は神に通じ」、「小児の疳は虎屋の門をくぐれば診を請けおはさるも全て治す」信頼される医師であったことがうかがえる。

22 伊勢長跡 / 伊勢屋長兵衛邸  
鎮守・愛宕神社の参道に建つ小林質店は、かつては「伊勢長」と呼ばれる造り酒屋でした。嘉永5年(1852)に建てられた、蔵造りの古民家でしたが、東日本大震災の影響で取り壊されました。表には駒奇という馬を繋ぐための格子囲がありました。

本陣長瀬清兵衛邸  
道から少し入ったところに門と大きな松がある。建坪166坪でした。享保元年(1716)に本陣長瀬伝蔵とあるので、このころには長瀬家が本陣を勤めていたようで、初めて古文書で確認できるのは安永7年(1780)で本陣長瀬清兵衛と記載されている。しかし、文化7年(1810)に清兵衛が死去すると長瀬家は2代にわたり女性が当主だったので、本陣の建物は長瀬家の家屋を使用し、本陣役は年番で高館屋七兵衛、鳶吉兵衛、海老原市左衛門、釘屋嘉右衛門などが勤めた。その後、天保4年(1833)～天保12年(1841)までは可児(貴屋)七左衛門が、天保13年(1842)には鳶吉兵衛が、天保15年(1844)～安政4年(1857)までは大塚伊兵衛が勤めていた。安政4年2月、幸手宿の名主兼問屋の中村右馬之助家から養子として清兵衛(清左衛門)が長瀬家を継いだので、本陣役が長瀬家に戻った。

本陣は大名や旗本、幕府の役人、日光門主などが休憩や宿泊をした場所です。門や玄閤があるのが特徴で、旅籠屋のように一般客を泊めることはできなかった。大名などの利用者が宿泊代を取ることで、謝礼という名目で金銭が支払われた。天保7年(1836)の杉戸宿本陣への謝礼は休憩200疋(約50,000円)、宿泊300疋(約75,000円)が一般的でした。

問屋場跡・明治天皇御休所跡  
新町北側の鎮守

問屋場跡  
杉戸宿の問屋場は下町にあった。現在の三井住友信託銀行の場所。問屋場では4組(上町・河原組・内蔵組・中町・舎人組・与左衛門組、下町・雅楽組、新町・上杉組)から選入された4人の問屋(人馬を差配する監督職)と年寄(問屋の補佐役)、帳付(出納や事柄を帳面に書き付ける役職)、馬差(馬の用立や運輸の指図をする役職)などが詰っていた。大名や旗本、日光門主、幕府役人などが日光道中を通行する際、先触れといった書類が杉戸宿の問屋場に届けられ、大名などの宿泊や休憩、荷物の輸送状況などの情報を得た。これと共に、杉戸宿に来る予定の大名の家臣は問屋場を訪れ、本陣や旅籠の手配のため、本陣役や旅籠組合総代と打合わせ、問屋は必要な旅籠の数は本陣や旅籠組合に連絡し、輸送するために必要な人馬の数は助郷会所に連絡した。このように問屋場はすべての情報が集まるので、本来の業務である荷物輸送のみでなく、他の役職への連絡や調整業務もあり宿場で最も重要な役割を担っていた。

大落古利根川  
古利根川は江戸時代初期まで利根川の主流であった。徳川氏は江戸を洪水から守るため江戸湾に注いでいた流路を変える。元和7年(1621)関東郡代伊奈忠治に命じ、瀬替えをして利根川を渡良瀬川に合わせた。さらに承応3年(1654)伊奈忠克に命じて利根川を鬼怒川に合わせた、現在のように太平洋に注がせた。古利根川は磨川となったが、東部の用水不足を補うため、利根川の水を取り入れて葛西用水とした。数多くの農業排水路が合流することから「大落」とも称されるた。

神明神社  
六本木の鎮守で、かつて真言宗万福寺持ちの神社であった。「新明様」として親しまれています。

東武動物公園駅  
埼玉県南埼玉郡宮代町百間二丁目にある東武鉄道の駅である。開業時の駅名は杉戸駅であったが、東武動物公園開園に伴い現在の駅名に改称された。伊勢崎線と日光線の2路線が乗り入れている。日光線は当駅が起点であるが、南栗橋方面からの列車のほとんどは伊勢崎線北千住方面へ直通している。伊勢崎線系統と日光線系統の双方が乗り入れる伊勢崎線の浅草駅・押上駅・当駅の間は「東武スカイツリーライン」の愛称が付けられており、愛称のない当駅から久喜方の区間とはラインカラーなどの案内上でも区別されている。

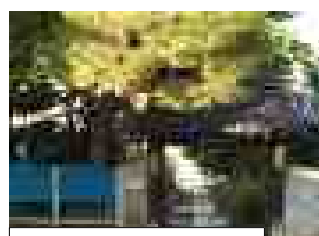
万福寺  
六本木の鎮守で、かつて真言宗万福寺持ちの神社であった。

八幡神社  
三本木の一里塚

東福寺  
「宿内東福寺境内におしみの松と号(なづけ)候松し之」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)おしみの松は今はない。元和元年(1615)上杉戸から移設。明治22年(1889)杉戸町最初の本町役場となった。明治時代初期、全国的に自由民権運動が高揚する中、ここ東福寺は埼玉県東部地域の中心となり、政談演説会が度々行われていた。また明治22年(1889)には杉戸町の最初の町役場が置かれた。門前を通る道は、南側用水路、今は暗渠化され遊歩道になっている。



本陣跡 / 長瀬清兵衛邸



東側脇本陣 / 鳶吉兵衛邸跡